



TITLE:

十一月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

十一月の天象. 天界 1928, 9(92): 26-29

ISSUE DATE:

1928-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161338>

RIGHT:

十一月の天象

部分日食

本月12日に部分日食があるが日本からは全く見えない。恰も御大禮ある日出度日本に日食を見せるのを御遠慮申上げてゐるかの如くに。

此の部分食の見えるのはイスパニア半島を除いた全ヨーロッパからアフリカの東北部及びアジアの中央以西、印度、チベット近までの地方に起る。食分の最大は太陽の直径を1とした時0.808 缺けるので相當に深い部分日食である。

皆既月食

本月27日に皆既月食がある。缺け初めはヨーロッパの西部並びに北海岸、及び大西洋、北アメリカ、南アメリカ、大平洋、アジアの北部から見られる。終りは北アメリカ、南アメリカの北部、大平洋、オーストラリア及びアジアの東部から見える。我國では本州中部以西では缺け初めは見えないが、皆既の頃からすつと見る事が出来る。臺北では月の出の時既に皆既になつてゐる。各状況の時刻を日本の中央標準時で表はす。

初虧	11月27日16時23.8分	生光	27日18時29.3分
皆既	27 17 33.1	復圓	27 19 39.0
食甚	27 18 1.2		

火星の接近

火星が今年最も地球に近附くのは12月16日である。従つて本月から既に注意してゐなければならぬ。視直径もグングン大きくなり本年1月始に4秒であつたのが6月始に6秒、9月始めに8秒となり本月始めには13秒近くなつてゐる。又距離も1月には太陽地球間のその2.4倍であつたものが、今は0.7倍となり、太陽よりも近いのである。

アルゴールの極小時刻

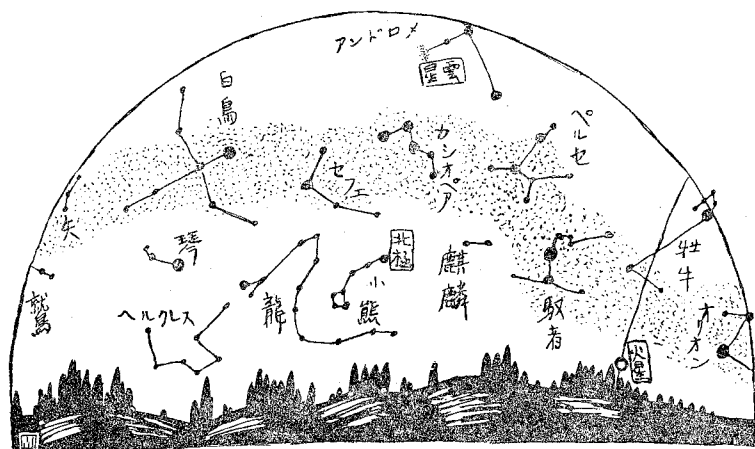
2日午後10時、5日午後7時、(以後白晝故中略)、20日午前2時、22日午後11時、25日午後8時。

木星の衛星

此の月が最も見頃、月始めは午後5時頃既に東に登り午後11時に南中する。光度負1等、視直径46秒。木星地球間の距離は地球太陽間の距離の約4倍である。小型望遠鏡でも其の表面の模様や、衛星の内4個、及び其等衛星が或は木星の影で食を起し、或は木星の前を經過して自分の影を木星面に投げるなど見えて太陽系の好標本である。以下本會發行の天文年鑑の一部を抜きまつて説明してみよう。圖は天體望遠鏡で見た衛星の、木星に對する位置を示す、從つて東西が逆になつてゐる。時刻は毎日午後10時30分の時。11月1日には衛星1が午後9時11分經過を始め同11時19分終る。圖は經過の途中、右端に白圓でそれを示す。1の影は同9時16分より11時26分まで木星面上に見える。其の間に4と3は西へ進み(衛星は番號の記してある側へ進む)、2は東へ進んで翌2日午前0時13分木星の後へ潛入し、同2時38分に木星の影(圖の右側にある)の中から現はれる。斯くて2日の夜になるに既に3は經過を濟まして西側に在り、2も前夜の如く東へ進んでゐる、1は此の日前夜の2

日 附月	西	東
1	4 ②	② 2 〇 3 ② 1 〇
2	4 ②	3 ② 〇 ② 1 ② 2
3	4 ②	3 ② 1 ② 2 ② 〇
4	② 4	② 3 ② 2 〇 ② 1
5	② 3	② 4 ② 1 〇 ② 2
6		② 4 〇 1 ② 3 ② ② 3
7		2 ② ② 1 ② 〇 4 3 ②
8		② 2 〇 1 ② 3 ② ② 4
9	② 1	3 ② 〇 ② 2 ② 4
10	3 ②	1 ② 〇 ② 4 2 〇

の如く午後6時27分掩蔽潛入し、同8時44分影の中より出る、即ち食を終る。斯くして2日の圖の如き位置となる。更に3日には2が午後7時0分經過を始め、影は同15分に始まり、同9時10分經過終り、影は同22分に終つて午後10時30分の位置が圖の如くである。5日になるに午後8時41分に3が掩蔽潛入し、同11時7分に食を終る。圖は其の掩蔽中、左端の黒圓で示す。

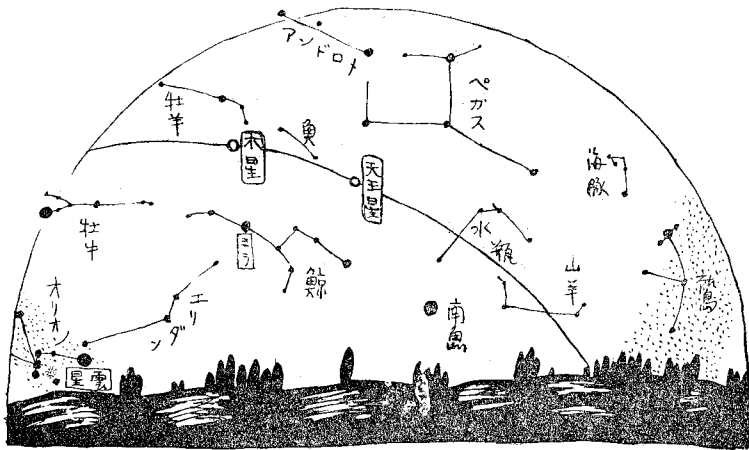


北 天

恒 星 界

野も山も、見渡す限り紅葉の錦を織りなして秋色やうやく濃く、天上も亦、銀河が北に横はつて、夏の星座はすがたを隠し、秋の星座の白鳥琴鷲や海豚、ペガス等も大方西に傾いて、北に龍、セフェ、カシオペア、ペルセ等並び、天頂にはアンドロメが頑張つて、其の大星雲は最も見頃、肉眼でもそれと認める事が出来る。

南の空には山羊、水瓶、南魚等が順々に地下へ急ぎ、天王星と木星とは宵の人気者、鯨座のミラは減光を續けてゐる。時間が経つに従つて、東からエリダン、オリオン等の冬の星座が現はれ始め、今年末の天空を飾る花形役者、火星もおもむろに登場して、愈々賑やかな空の景色となつて行く。殊に日本から見える月食が27日の宵にある。此の頃になる空の清い地方では、宵の西方、黄道に沿ふて舌状をなす淡白い黄道光が見える様になつて来る。



南 天

太 陽 系

太陽は中旬まで天蝸宮に在り、22日より人馬宮に入る。星座は中旬まで天秤座、下旬には蝸座に入る。12日に部分日食あり26頁を見よ。

月 下弦、4日午後11時6分 新月、12日午後6時35分

上弦、20日午後10時36分 満月、27日午後6時6分(月食)

水星。曉の東天に見ゆ、9日が西方最大離角、太陽から19度離れる。其頃は乙女座主星の東方數度の所に在つて、半月型の姿である。

金星。宵の明星、7日頃土星と相並んで西空を賑はす。

火星は愈々觀望の季節。位置は双子座、光度は負1等。

木星。衝をやつこ過ぎた許り、最も觀望によい。牡羊座に在り。

土星は宵の西空、蛇遺座にあり。光度正1等。月末には觀望不能。

天王星。魚座44星に近く、光度6.1等だが晴空なれば肉眼で見ゆ。

海王星は獅子座主星の東、光度8等の曉の星である。